



教育目標：自立 敬愛 精励
ようがの学び舎 舎訓 責任 信頼 誇り



用賀中だよい

～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより 11月号 令和7年11月吉日

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校

校長 毛利 慎治

(スマホでも読みやすくなるようレイアウトを試行しています)

(別刷)

代表生徒の、バンバリー体験報告です。

世田谷区では、姉妹都市カナダ・ウィニペグ市とオーストラリア・バンバリー市との間で交代して開催し、国際理解を深め、区と姉妹都市との友好親善を進めることを目的とした、区立中学生の相互訪問による姉妹都市中学生教育交流事業を実施しています。

令和7年度の交流先はオーストラリア・バンバリー市です。同市への中学生派遣は4回目を迎えました。

用賀中学校からは2年生 T . Aさんが応募し、区内全応募者の一次審査、二次審査を経て派遣者として決定しました。また Tさんは派遣団の団長も務めたそうです。

11月4日(火)の全校朝礼で、派遣先の情報や活動内容、そこで学びなどを全校生徒に向け、プレゼンテーションしました。生徒皆さんの今後の長い人生の中で、海外やその文化に目を向け、自身の視野や考えを広げ、深めるきっかけになるとよいと願っています。

話した内容を掲載いたします。以下をお読みください。

バンバリーは西オーストラリア州の港町です。世田谷区と比べると人口は約13分の1で、面積は約2.7倍です。1992年に世田谷区と姉妹都市提携を調印しました。私が今回この授業に参加した理由は、海外と日本との文化の違いについて学びたいと思ったからです。

今回のメンバーは14人で世田谷区立中学校の2年生が参加しました。6月から始まった研修会を通して、現地の方々に見せるためのアトラクションやスピーチの準備を重ねました。何度も集まつた中で仲良くなり、様々な意見を交流するようになりました。

ここにある写真が一緒に行った仲間です。私は団長を務めましたが、みんな協力してくれて楽しく有意義な時間を過ごせました。この青の法被の写真は現地の人間に見せたソーラン節直前の様子です。

現地の人々にとても喜んでもらえて盛り上がりました。日本の文化をたくさん知ってもらうことができました。そして、私たちがオーストラリアで最初に行ったのはアボリジナル文化体験のワークショップです。アボリジナルとはオーストラリアの先住民の人たちのことを指します。

「アボリジニ」という言い方はあまり今ではふさわしくないということで、「アボリジナル」という言い方をしています。アボリジナルの人々は6つの季節があると信じています。その6つの季節をグループに分かれて、絵の具を使って表現しました。

アボリジナルの人たちは、かつては狩りをして生活をしていたので、カンガルー肉なども食べさせてもらいました。写真はないですが、味はとてもおいしかったです。日本とは全然違う文化を楽しめました。写真の、手に持っている長い棒のようなものはアボリジナルの伝統の笛で、男の人しか吹いてはいけない笛だと教えてもらいました。

次に行ったのは、マネア・シニア・カレッジというオーストラリア・バンバリー市の学校です。海外というような校風で、中庭でご飯を食べたり、先生たちと一緒に休み時間にマリオカートをしたりしていました。

マネア・シニア・カレッジの高校では、生徒が主体となって作られた飾りなどがあり、華やかで楽しそうな雰囲気です。自習する場所がたくさんあって、かなり自由な場所です。日本とは全然違う校風でした。そしてバンバリー市の町にはたくさん特徴があり、その中の1つが壁画です。

街のありとあらゆる場所にその壁画があり、ストリートアート巡りが可能です。元々あまり観光地として有名ではなかったバンバリーに観光客を呼び込む工夫です。毎年新しい壁画が追加されています。どの壁画もメッセージ性が強く、色も鮮やかで綺麗でした。

さらにバンバリー市内にある動物園では、カンガルーや鳥や羊に餌やりができました。

まとめとして、私がこの海外派遣で培ったことは、たくさんのつながりです。一緒に行ったメンバーとはもちろん、今回の海外派遣ではホームステイがプログラムされており、私一人その家へ行き、3泊4日のホームステイをしました。

小学生の娘さんとたくさん時間を使って話しました。私は英語を上手に話せないことがあります、ホストファミリーが真剣に聞こうとしてくれました。そして、そのホストファミリーとお別れする時にとても寂しがってくれました。

最後に海外派遣に行く準備で、私が一番怖がっていたことは言語の壁です。しかし、バンバリーに行き、たくさんの人と英語で話さざるを得ない状況に身を置きました。現地の方々は自分が思っていたよりもフレンドリーでとても接しやすかったです。

ずっと怖がっていましたが、今回の体験が、派遣を恐れなくていいということを教えてくれました。もしかしたら、私と同じようにコミュニケーションが苦手という人もいるかもしれません、そう思っている人にこそ海外派遣に行ってもらいたいです。

現地の方とバーベキューをしたり、メンバーとお菓子パーティーをしたり、とても楽しい体験でした。来年はカナダのウィニペグ市です。興味のある1年生は、是非申し込んでみてください。これで終わります。



河口湖移動教室、個の成長、集団の成熟

10月29～31（水～金）で、1年生は河口移動教室に行きました。大きなかがや病気なく、参加した生徒全員が無事に帰ってきました。

週明けの全校朝礼では集合や整列からその学びを生かし、集団力を発揮しました。その後の1校時に学年集会を開き、今回の実行委員からの感想を聞き、あたたかな感謝の拍手を全員で送りました。

移動教室の間、取り集めた写真で「学年だより 移動教室臨時号」が3号発行されました。学年のご家庭には配信されていますが、少し小さな版として、こちらでも紹介いたします。雰囲気が共有できれば幸いです。

